

南信州地域交通総合連携計画

合連携計画の策定年月日 平成21年3月4日

合連携計画の区域 南信州地域(飯伊14市町村)

本的な方針

地域住民の生活確保による地域の持続的発展、高齢者や高校生などの交通弱者への対応、既存公共交通の接続の効率化等による利便性の向上、自家車依存からの脱却による地球環境保全等を目的とした、新たな交通体系「南信州公共交通システム」を構築する。

合連携計画の目標

- 南信州公共交通システムの確立
- 交通不便者に対応した公共交通の利便性向上
- 高校生、高齢者に対応した公共交通システムを構築し、利用増加を目指す。
- 公共交通利用者の拡大
- 公共交通の利便性の向上と利用促進のための事業を行い、公共交通利用者の増加を目指す。
- 基幹路線に対する准基幹路線・市町村内路線の効率的・効果的な接続・接続方針を考慮した地域内公共交通の最適化を目指す。

業及び実施主体

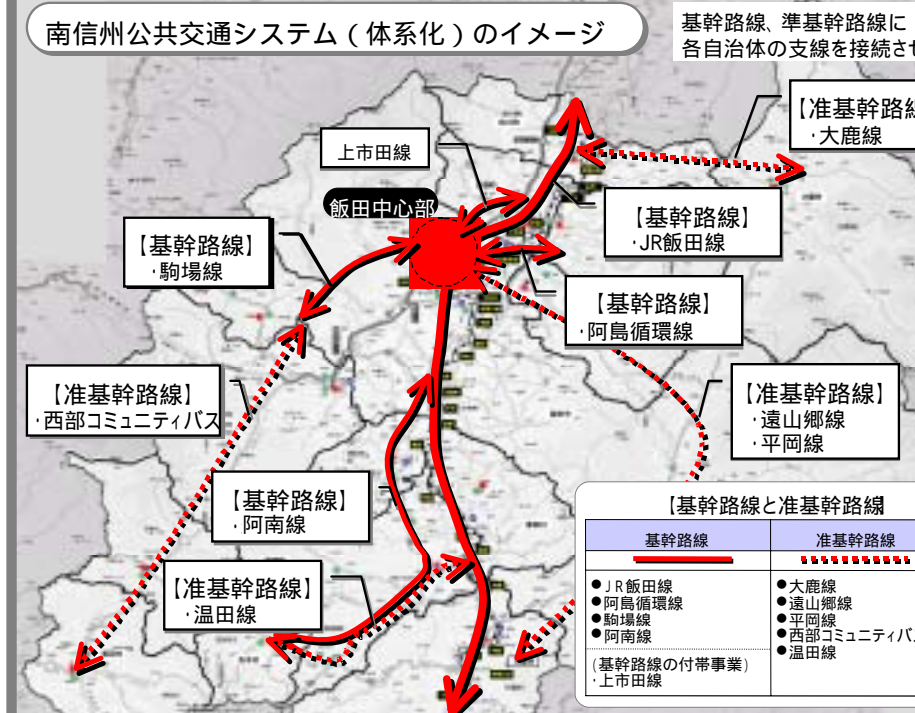
- 線バス「阿島循環線」の実証運行(実施主体:信南交通(株))
- 線バス「駒場線」の実証運行(実施主体:信南交通(株))
- 合タクシー「上市田線」の実証運行(実施主体:北部タクシー(有))
- 公共交通利用促進・利用転換事業(南信州地域交通問題協議会・飯伊14市町村信州地域内他法定協議会)
- 報提供事業(南信州広域連合)

南信州地域交通問題協議会

設置年月日:平成20年3月25日

構成員:圏域住民代表、地域ぐるみISO研究会、飯田市社会福祉協議会、飯田商議所、下伊那地区高等学校長会、JR東海(株)、信南交通(株)、伊那バス、長野県タクシー協会、大新東(株)、名古屋大学大学院准教授、飯田国道所、長野県、飯田建設事務所、飯田警察署、阿南警察署、北陸信越運輸、長野運輸支局、南信州広域連合協議会議員、飯田市、松川町、高森町、阿阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊大鹿村、南信州広域連合

南信州公共交通システム(体系化)のイメージ



全公共交通の体系化 + 統一運行ルール + 利用促進

南信州地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 初年度・2年度目）の概要

平成22年度事業実施概要

検討の経緯

年度・月日及び検討された内容
を記載して下さい。

平成11月：協議会駒場線部会

路線バス駒場線の実証運行について
状況報告。
ワークショップを通じて改善策につ
き協議し、全体意見交換で意見の
共有を図る。

平成11月：協議会北部線部会

路線バス阿島循環線及び乗合タク
シ市田線の実証運行について
報告。
ワークショップを通じて改善策につ
き協議し、全体意見交換で意見の
共有を図る。

平成11月：飯田市民会議

阿島循環線及び上市田線の運行
経路に該当する飯田市座光寺地区
においては、公共交通について検討
住民と利用者による小委員会が
設けられており、翌年度から乗降調
査アンケート調査等を踏まえ、年
度中でも必要に応じて見直しや改
善を実施していくとした。

平成11月：協議会総会（第1回）

年度事後評価について
制度の地域公共交通確保維持
事業についての情報共有

平成11月：協議会総会（第2回）

年度事業全体の実施結果と総
評について
年度事業計画について

事業実施状況及び今後の展望

事業名：乗合タクシー上市田線
実証運行事業

- <実施主体>
南信州地域交通問題協議会
・平成21年4月1日：実証運行開始

- （4月～12月まで）（目標値）
・一便あたりの利用者数：2.1人、(2.0人)
・輸送人員 1,997人(1,894人)
・収支率12.5%、(12月時点13.4%)
一便あたりの利用者、輸送人員は、目標
値に達した。収支率については、目標値を
下回る結果となった。

- ・学生(高校生)など、定期的に利用してい
る方にとって事前の予約は煩わしい。
- ・予約制が定着しておらず、周知がまだま
だ不足している。
- ・学生定期券の売り上げがあまり無いこと
から学生にとっての利便性の悪さが伺え
る。

- ・高校生の通学に対応した運行と高齢者利
用に対応した切り分け運行の検討。
- ・運行経路沿いの地域へのチラシ配布や
高齢者等の集いを利用して周知。
- ・H22年度に協議会の委員に高校関係者
(下伊那地区高等学校長会)が加わり、
高校生へのPRを強化する。
- ・H20年度に比べ大幅に利用が落ち込ん
でおり、座光寺地域自治会の小委員会と
連携した見直しや改善の実施。

事業名：路線バス阿島循環線
実証運行事業

- <実施主体>
南信州地域交通問題協議会
・平成21年4月1日：実証運行開始
・車両2台

- （4月～12月まで）（目標値）
・一便あたりの利用者数：7.5人(7.1人)
・輸送人員 11,535人(11,700人)
・収入：3,212千円、(3,508千円)
一便あたりの利用者は、目標値に達した。
輸送人員は概ね目標値どおり、収入の方
は目標値を下回る結果となった。

- ・喬木村の村営バスルートは異なるもの
の飯田市内まで運行しており、うまく連携
がとれていない。
- ・乗り込み調査や部会のワークショップによ
り、運行経路が長い、循環運行のため
時間設定で買い物、通勤、通院に利
用しにくい。
- ・学生定期券の売り上げがあまり無いことか
ら利便性の悪さが伺える。

- ・連携の一環として、阿島循環線と喬木村
民バスの合わさった時刻表の検討。
- ・H22年度に協議会の委員に高校関係者
(下伊那地区高等学校長会)が加わり、
高校生へのPRを強化する。
- ・利用が低調であり、座光寺地域自治会の
小委員会と連携した見直しや改善の実
施。

事業名：路線バス駒場線
実証運行事業

- <実施主体>
南信州地域交通問題協議会
・平成21年4月1日：実証運行開始
・車両7台

- （4月～12月まで）（目標値）
・一便あたりの利用者数：15.3人(16.5人)
・輸送人員 132,851人(142,500人)
・収入：37,479千円、(40,862千円)
3項目すべて目標値を下回っているが、
概ね順調に運行できている。

- ・4月1日より通学定期の上限設定をした
結果、高校生の利用は大幅に増えてい
る。
- ・4月から12月までの学生定期券の売り
上げは874枚で前年比285%となった。保
険者への負担軽減につながっている。

- ・翌年度以降、高齢者の利用者の意向
調査を実施し、利便の向上と利用者増を
目指すこととする。
- ・H22年度に協議会の委員に高校関係
(下伊那地区高等学校長会)が加わり
高校生へのPRを強化する。

南信州地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 初年度・2年度目）の概要

前年度二次評価結果等に係る事業の概要

二次評価における主な指摘事項

・翌年度においては、今年度の問題点の検証を踏まえ、事業に取り組んで頂くよう期待します。

・地域関係者によるさまざまな財政支援の取組みについても、行われるよう働きかけて頂くことにより、今後事業実施環境を整えて頂くことを期待します。

・今後、本格実施に向け、将来の地域負担のあり方（負担の主体は自治体、交通事業者、地域住民、沿線企業等が考えられる。）についても御検討頂くことを期待します。

二次評価に係る主な事業実施状況

・交通不便者である学生（高校生）の利用を伸ばすため定期券の上限設定を行ったが、阿島循環線、上市田線については効果が薄かった。地域住民や高校を通じて積極的なPRを行う必要があり、翌年度はさらに利用が伸びるよう努めたい。

・財政支援の取組みについては、商工会のチラシの作成に合わせて利用促進事業（12月第1～4金曜日の駒場線の夜運行バス）をPRする等、連携した取組みを実施した。こうした連携により利用者の裾野を広げ、実施環境を整えていきたい。

・将来の地域負担のあり方について、路線バスや乗合タクシーの持続的な運行には、税負担の少ない健全な収支のバランスが必要であるが、そのためには地域住民の理解と協力が必要である。本格実施に向けた住民意識の醸成を、自治体職員が率先してノーマイカー通勤を行う、広報等を活用して等、今後も取り組んでいく。

今年度事業のポイント

地域住民・利用者の意見を反映させた点

（地域住民の意見がどのように反映されたか記載して下さい。）

- ・平成20年度において連携計画を策定し、本年度から実証運行を実施するにあたり、高齢者の通院や学生（高校生）の通学の確保、及び圏域各地域における生活確保を望む意見が多く寄せられたため、当協議会が運営する路線については、これらの意見を考慮した運行経路・運行時刻を設定した。
- ・平成21年度には交通空白地帯の解消や停留所の増設（阿島循環線）、平成22年度から学生利用を増やすため、学生定期の上限付き割引を実施した。今年度、部会やワークショップ（協議）の開催により、バスの小型化や小回りの利く運行といった利便性の向上を望む声があった。阿島循環線及び上市田線は利用が伸びているものの収支率ではさらなる向上が必要であり、再来年度の本格運行に向け改善や見直しをしていく。

協議会として特に工夫して取り組んだ点

- ・当協議会は広域的な連携による組織のため、幹事会や部会、構成市町村担当職員による担当者会議を設置している。協議は、住民団体等とのワークショップ（協議）部会（市町村法定協議会）幹事会 協議の積み上げ（ボトムアップ方式）となっている。
- ・個別具体的な協議は、第一段階として部会等で行われるが、部会等の機能を有効に活用し、直接的に関係地域住民の意見を聞き取ることが可能である。